

西洋衣食住

完

慶應三年丁卯季冬

西洋衣食住

片山氏藏版

西洋衣食住

題言 九ノ一



西素をそふ西洋服と用ひ新者志と
 多し試用其外之働も果も便利あり
 此と譽へくはふるは次なるそふを人
 或は彼國衣服の製法を心得てしや
 譬へは果物も小棉ワタ入と着る襦スズメもん
 代りも好いと用ひる等の中も

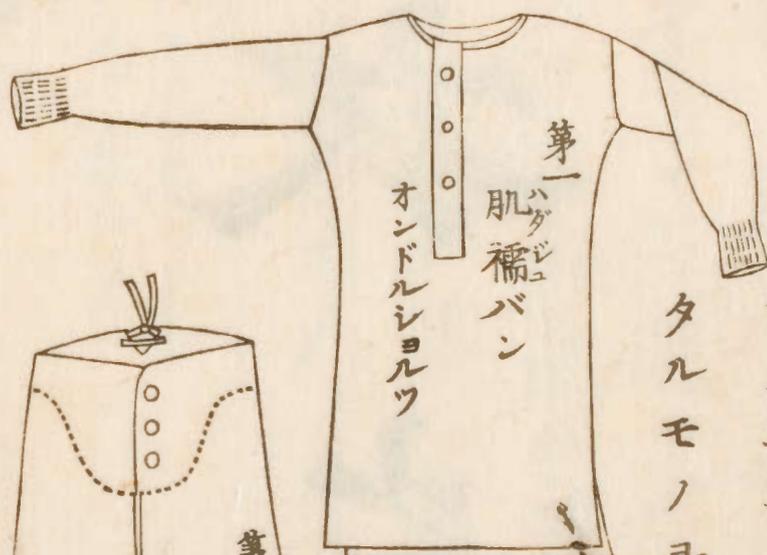
わうくはく今山の巾冊のく彼國衣
囊志一ト起りや亦善く會事
の強道具寢中のある扱和とよめ
其國法記一其國法と解ふ所
や揚門のくふふまの美

交店三年
丁卯唐冬

片山淳之助誌



樂在舟



第一

肌襦ハダジユバン

オンドルシヨルツ



第二

下股引

ツローワルス

コノニ品ハ大抵莫ム大ヤス小スニテ製シ
タルモノヲシ又ハ「アラ子ル」製ノ

モノモアリ冬令ハ先
ツ「アラ子ル」ノ方ヲ用
ルコトナリ

由江石倉作

「シヨルツ」ノ方ハ洒^{カラ}シ金巾又ア

サニテ製シ平生用ユルモノ

ナリ「フラ子ル」

ルツハ



第三

上襦バン

シヨルツ

旅中マタハ

船中ナドニ

用ユ但シ毛織



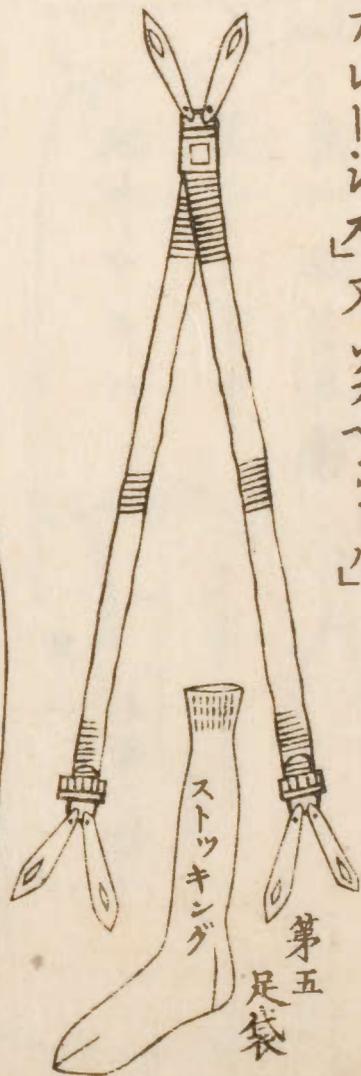
第三

毛織上襦バン

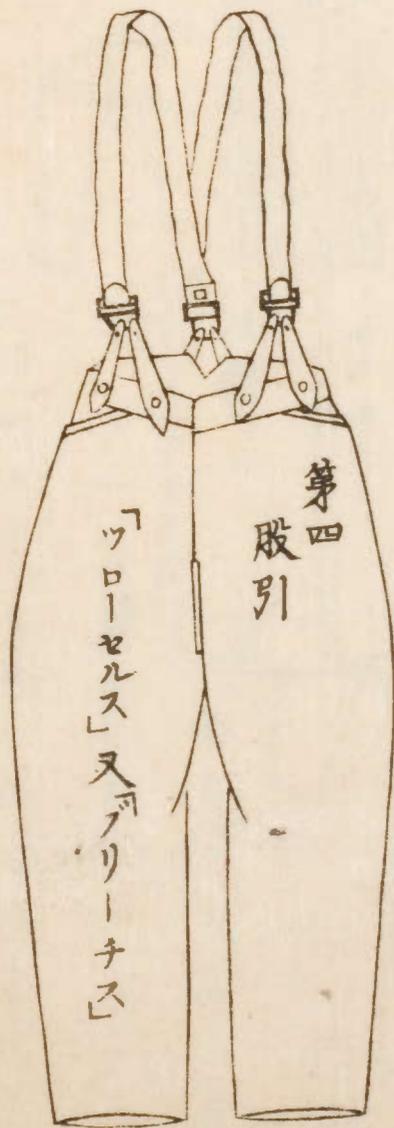
フラ子ルシヨルツ

ナレハ垢^{アカ}付クコトナシ

ズボンツリ
「ブレイレス」又「ブスペンドル」



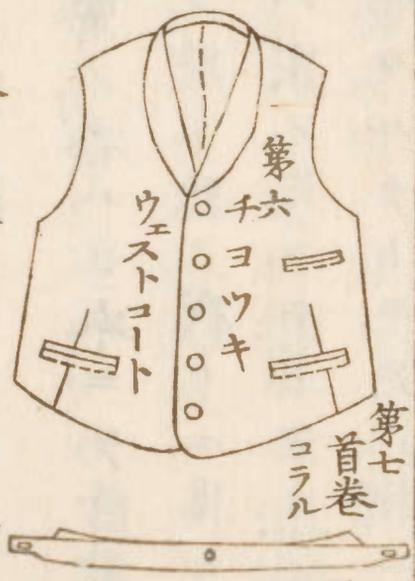
第五
足袋



第四
股引

「ツローセルス」又「ブリーチス」

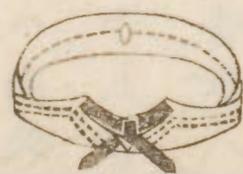
首卷ハ麻ナリ又ハ紙ニテ製シタルモアリ紙
 製ハ價モ安ケレ氏一日用シハ直ニ取捨ル
 ナリ西洋服ニハ必此首卷ヲ欠ヘカラズ西洋
 ニテ首卷ナキ物ヲ日本ニテ譬ヘハ半襟ノナ
 キ襦袢ヲ著ルガ如シ誠ニ不都合ナリ



同卷タル形



襟締
子ツキタイ

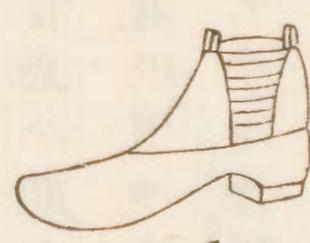


襟締ヲ
結ヒタル形

第八

沓

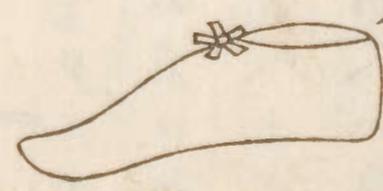
シューズ



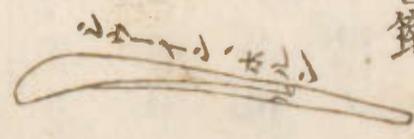
長沓
ブーツ



上沓
スリッパルス



沓篋



常ノ沓ハ日本ニテ雪駄ノ代ナリ長沓ハ雨天ノ時下駄ノ代リニ用ヒ又ハ馬上ニ用ユ上沓ハ家ノ内ニテ上草履同様ノ所ニ用ユ沓篋ハ沓ヲハクトキ足ノ躰ニ当テ滑ラスモノナリ

割羽織ハ身分アル人ノ常

服ナリ九羽織ハ一体職

人ヲドノ衣服ナレト

モ、高貴ノ人ニテモ

自宅ニ居ルトキカ又

ハ外へ出ルトキニモ著

ルコトアリ又下人トテモワリ羽織ヲ著ルコ

トノナキニモアラス必竟人々ノ好ミニテ外

見ヲ飾ル佛蘭西人ナドハ割羽織ヲ著ル人多



シ亜米利加人共吉利

●其形チ色々アレドモ

人等ハ都テ江戸子

一々コ、ニ記シ

ハダニテ衣服ニ

准シ○都テ

構ハズ襦ジュバン



サへ清浄ナ

レハ上著ハ何

ニテモ頻シ著レスル

コトナク高貴ノ人

ニテモ丸羽織ヲ著ル

羽織ノ地合ハ羅

紗ヲシ夏分ハ

「カレニヤ」ナ

モノ少カラズ但シ海

ドイヘル縮ト毛ト

陸軍等ノ役人改夕

半分雜リニテ織

ル規式ノ場へ出

タルモノ又

ルトキハユニ

フヨルムト

同後ノ衣

テコノ割羽織

ニ各々ノ格式ニ

由リ金銀ノ飾リヲ

亦ハ白地ノ

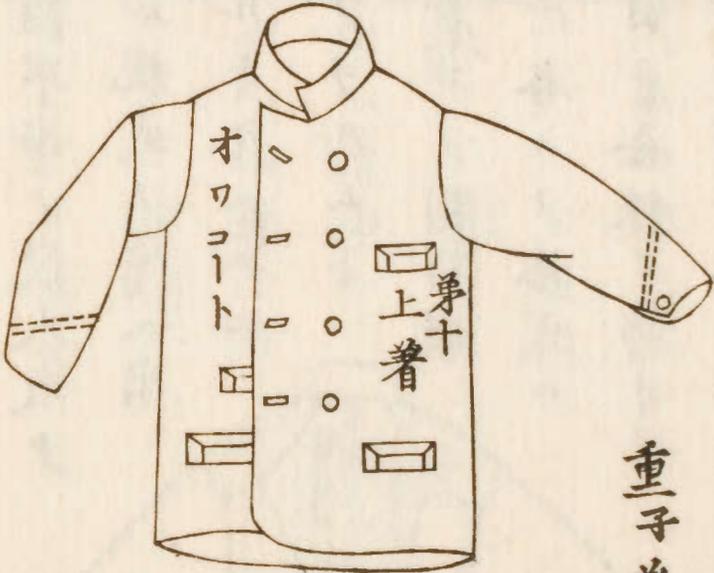
付タルモノヲ着用ス

麻ヲ用ユ

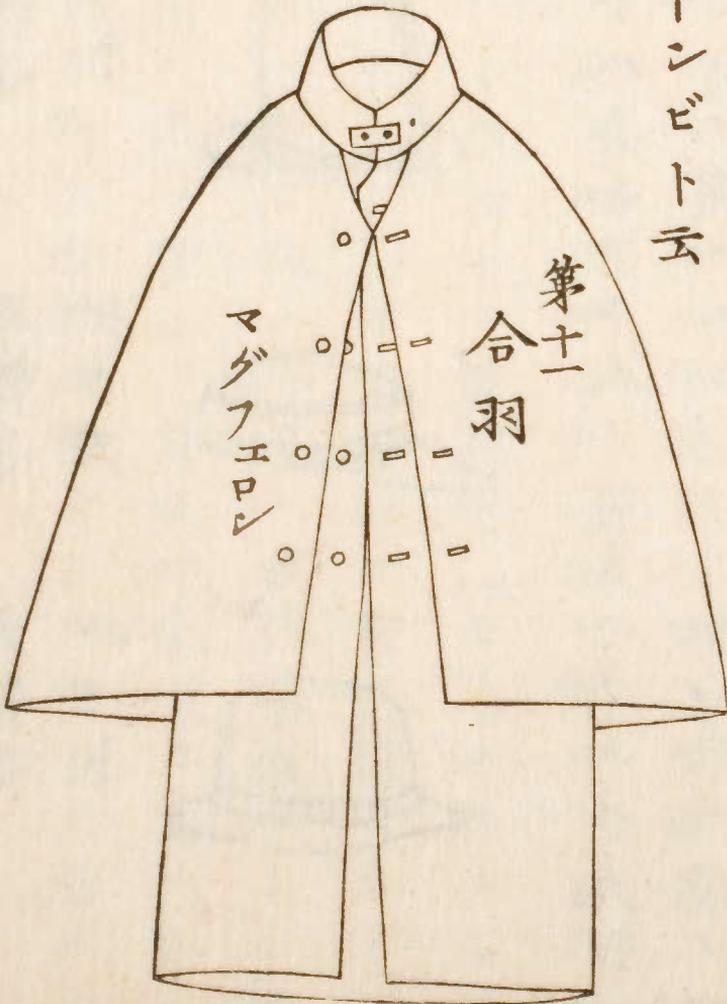


此二品ハ極寒ノトキ

重子著ニ用ユ

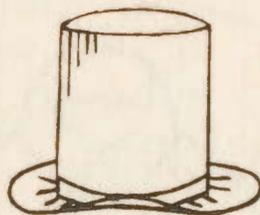


日本ニテ俗ニ
トシビト云



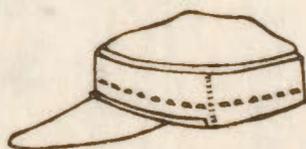
高帽子

ハツト



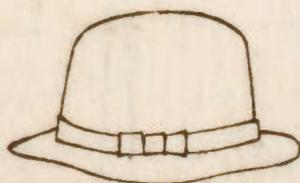
平帽子

ケツブ



丸帽子

ハツト



高帽子ハ身分アル人ノ冠ルモノニテ丸帽子ハ軽キ者ノ用ユルモノナリ但シ軽キ者ノ冠ル品トテ高貴ノ人ニテ用ヒザルニハアラズ

矢張身分アル人ノ自由ニテ丸羽織ヲ着用ス
ルガ如シ唯全体ノ品物ヲイヘハ高帽子ハ割
羽織ニ對シ丸帽子ハ丸羽織ニ對スルモノト
心得ヘシ平帽子ハ隨分平人モ用ユルコトア
レドモ多クハ海陸軍其外士官ノ常用ナリ帽
子ノ前ニ丈夫人ノ格式ニ由テ金銀ナドノ飾
リヲ附ケ又ハ帽子ノ周圍ニ金銀ノ縁ヲ付タ
ルモアリ斯ク金銀ノ飾リアル帽子ヲ冠タル
人ハ大抵彼國ニテ役筋ノ人ト心得ヘシ



傘

ラムブレラ

シ

傘ハ何レモ縮布ニテ張リ
日本ノ如キ紙張ノモノナ



斯ク傘ヲ疊ミシトキハ杖ノ
代リニ用ユヘシ

右ハ西洋服ノ大畧ナリ着用ノ順ハ圖ノ番号
ニ從ヒ先ウ第一バンニ。ハダジユバンヲ着。其
次ニ下^タモ、引其次ニ上襦^{ジユ}バント順々ニ番号
ヲ逐ヒ第九バンノ羽織ヲ着テ一通リ衣裳
ノ飾リツナワルナリ亦彼國ノ衣裳ニハ方々
ニカタシアルユヘサゲモノ其外手マハリノ
小道具ハ悉クカクシノウチニ納ルヘシ譬へ
ハ手拭ハ羽チリノカクシニ入レ。金入レハ股
引ノカクシニ入レ。時斗ハ。チヨウキノカクシ

西河五全傳
ニ入レテ鎖クサリヲボタンノ穴ニ掛ル等大抵丈々
ノ極リアリ○小便所へ行クトキハ上下トモ
モ、引ノマヘノボタンヲ外ハズシテ事済ムナレ
ドモ大便ニハ先ツ此ボタンヲハヅシ次ニズ
ボンヅリノボタンヲ前後トモニハズシテ大
便終レハ又其ボタンヲ掛ルニ、ウシロノボタ
ンハ手サグリニテ掛ルコトユヘ衣服ニナレ
ザル間ハ甚ダ不便利ナリ

食

之

部

食事臺

テーブル

西洋人ハ箸ヲ用

ヒズ肉類其外ノ

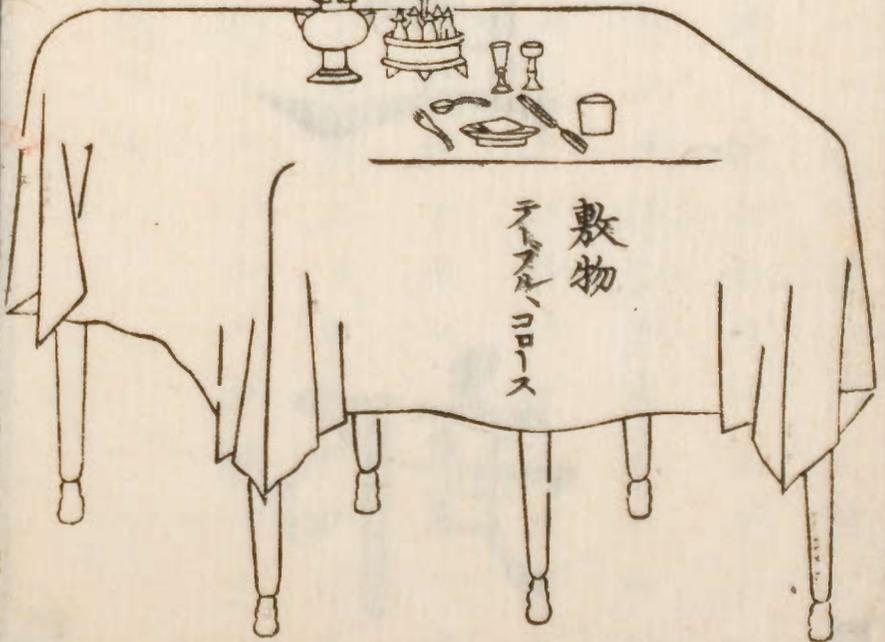
品々大切ニ切り

テ平皿ニ盛り

銘々ノ前ニ並へ

タルヲ右ノ手ニ庖

丁ヲ以テコレヲ小



敷物
テーブル、クロス

サク切リ左ノ手ノ肉^テ利^{サレ}ニ突掛テ食スルナリ
庖丁ノ先ニ物ヲ載セテ直ニ口ヘ入ル、ハ甚
不行義ノコト、セリ汁モノモ矢張平皿ニ入
レ^{サレ}ヒニテ吸フナリ汁モノ其外茶ヲ飲ムニモ
口ニ音ヲサスルコトモ不行矣トス此圖ハ一
人前ノ皿茶碗等ヲ並ヘタル所ナリ大勢會食
スルトキハ一ツ食事臺ヘ二十人モ三十人モ
席ヲ列ヌルコトアリ食事諸道具ノ名ハ次ニ
記セリ

平皿
プレート



水呑
トムブラル



匕
ティーズプ



肉利
フラルケ



庵丁
ナイフ

花活
ウエーレス



グラス



食事臺ノ上ニ置ク

シャンパンガラス



茶碗
チーコップ
茶碗臺
ソラセル

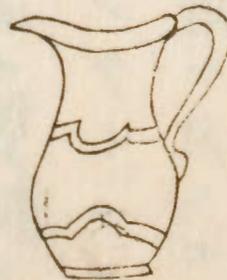


小ロ
ス。アイシ

名酒瓶
ノ上ニ置ク



乳汁入
ミルキポット



砂糖入
レウガルベースン

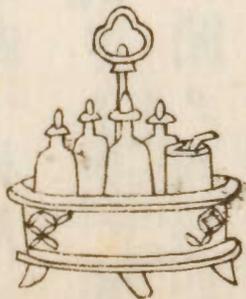


砂糖挾
トシダス



茶味入
カストルス

醬油
油
芥子
胡椒



平生ノ食事ニハ赤葡萄酒又ハ「シエリ」酒其外
和ルトワイシ」等ヲ用ユルナレドモ式日亦ハ

客ヲ饗應スル時ナドニハ「レ」パン「レ」其外種々
 ノ美酒ヲ用ユ甘クキウールキ酒又ハ「ブ」ラン「デ」イ「杯」云フ
 酒ハ食後ニ小キコツツププニテ鳥渡一杯用ユル
 モノナリ又ビビイトルルトト云フ酒アリ是ハ麥酒
 ニテ其味至テ苦ケレドキヨウカク胸膈ヲ開ク為ニ妙ナ
 リ亦人々ノ性令ニ由リ其苦キ味ヲ賞翫シテ
 飲ム人モ多シトウイスキキレブレランデイレナド云
 ヘル酒ハ至テ強クシテ食事ノ時ニ用ヒズ多
 クハ下人ノ飲ムモノナリ

住

之

部

手水臺

ウツシ、スタンド

西洋人ノ寢間ニ

ハ手水鉢ノ臺ア

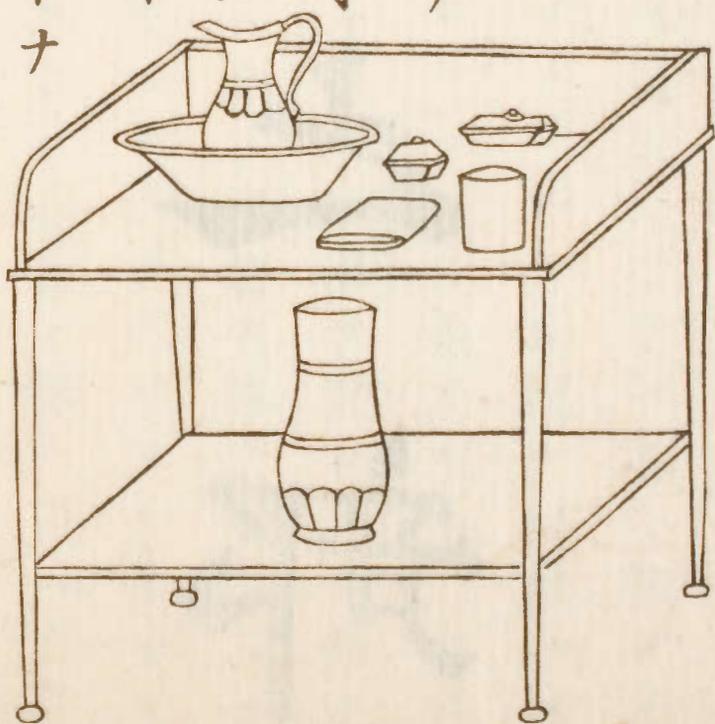
リテ毎朝漱^{ウツシ}ヒ手

水ハ勿論食事ノ

前後ニモ手先キ

ト面ヲ洗フコトナ

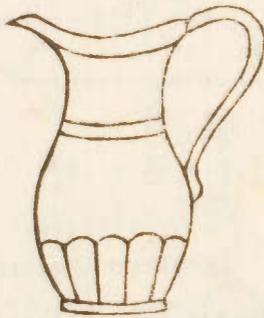
リ此圖ニアル大鉢ハ瀬戸物ニテ金盥^{ウツシ}ノ用ヲ



為スモノナリ臺ノ下ノ壺ハ水コボシナリ其
外小道具ノ圖解ハ左ニ記セリ

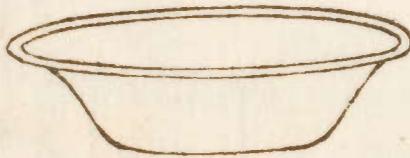
水指

ピツシアル

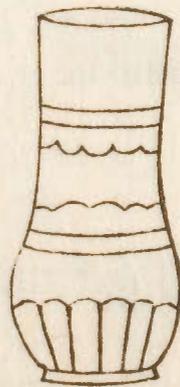


金盥

ベースン



水セリ 盥シ
ジヨク



手拭

タウル

夫ニ尺
巾ニ尺



石

三

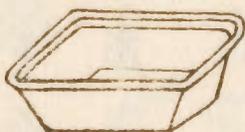
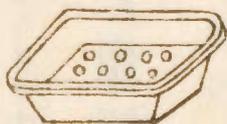
揚子入



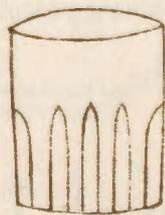
巾着
シメテ入



石鹼入



漱茶碗
トシブラル
水香ニ同シ



櫛
コム



髪ナデハケ
ヘヤルブロシ



此圖ハ箆子ノ

上ニ鏡ヲ載

セタル

所ナ
鏡

ルキ
ガ
ラ
ス

リ西

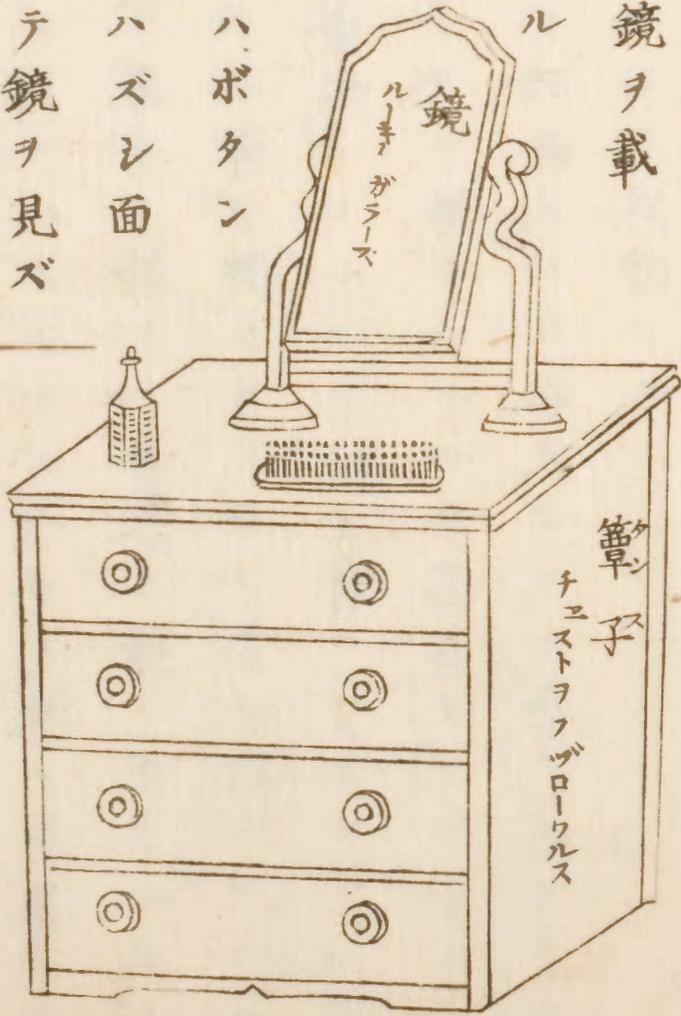
洋服ハボタン

ハメハズレ面

倒ニテ鏡ヲ見ズ

ニ手サグリニハ出

スメルリンダボツル



箆子

チエ
ストヲ
ツル
ロー
ウル
ス

西洋

一

来ガタシ且朝夕髪モナデ付ルコトナルユヘ
下間ノ内ニハカナラズ一ツ、鏡ノ用意アリ
衣服ヲ着用シ終レハ香水ヲ襟ノ廻リニフリ
カケテ不浄ヲ拂フカバミノ左ノ服ニアルモ
ノハ香水ノビンナリ鏡ノ前ニアルモノハ衣
裳ノチリヲ拂フハケナリ其名ヲブロ^レトイ
フ都テ西洋人ハ日本人ヨリモ身ノ廻リヲキ
レイニスル風倍ナリ

西洋ノ家ニハ畳ナク

板張ノ上ニ

粗末ノ所

椅子イス

チエヤル

ハゴザヲ

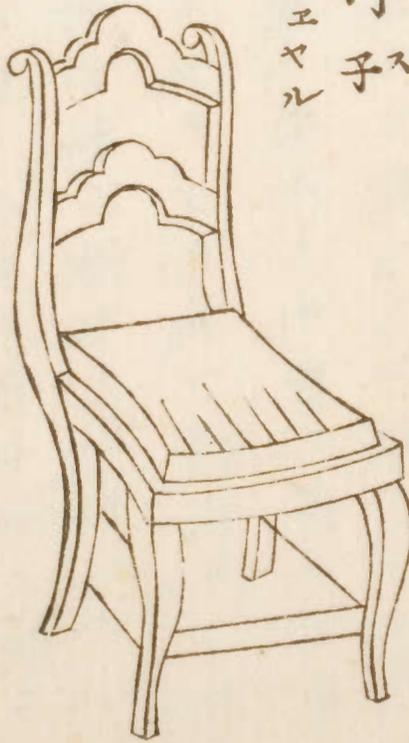
シキ上ノ間

ニハ、ダシツフ

毛セン其外キ

レイナルヲリモノヲ

シキテ此上ニ椅子ヲ並ヘテコレニ腰ヲ掛ル



風俗ナリ且又坐敷ノ内へ直ニスハルコトナ
キユへ往来ヲ歩行セシ者ノ終ニテ内ニ這入
リ差構ヒナシ尤家ノ入口ニムシロノ如キモ
ノアリテコレニテ者ノ泥ヲフキトルユへ敷
物ノヨゴル、コトナシ日本へ渡來セシ西洋
人等日本人ノ家ニ來ルトキ者ノ終ニテ疊ニ
上リ日本人ノ目ニテ見レハ土足ニテ失禮ナ
ド、思ハルヘケレドモ彼國ノ風俗ナルユへ
勘弁スヘキコトナリ

寢床ハ巾三尺長サ六尺余

二人寢ナレハ巾四尺余モア

リ敷^{シキフトン}蒲團ハ一番下ニ藁^{ワラ}其次ニ

棉^{ワタ}其次ニ毛ノ蒲團ト順々ニ

三枚モ敷キ上ニ晒^{サシ}ノ白布ヲ

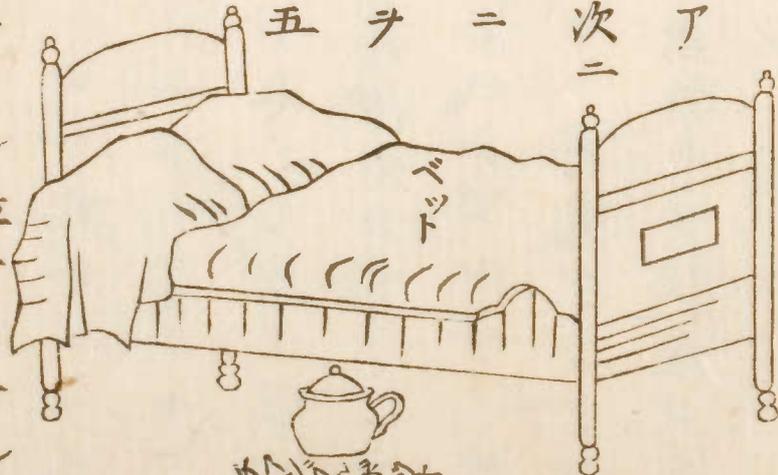
覆ヒ其厚サ三枚ニテ一尺五

寸モアルベシ上ニ掛ル夜

具ハ甚タ薄シ晒ノ布ニ枚

ニ^コブランケット^トノ二枚モ重子タル位ナリサレ

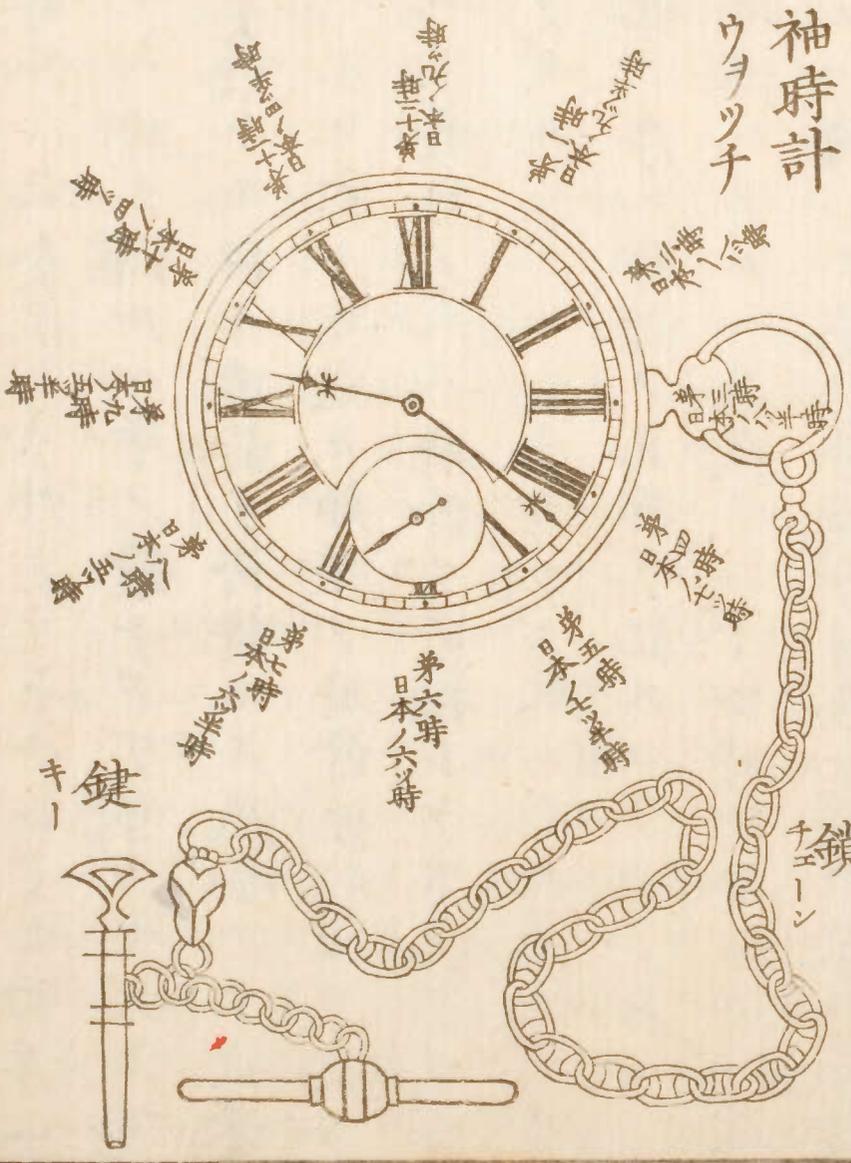
ベツトステッド



お茶の器

ドモ敷蒲團ノ数多ク且柔ラカニシテ人ノ体
ハ其中ニ落込ム程ノコトナレハ寒中ニテモ
寒ムキコトナレ都テ夜具ノ上下ニ覆フモノ
ハ晒ノ白木棉モメンニテ雪ノ如シ冬ノシラミ箕ノ
蚕サガナド探シテモ居ス誠ニ清淨潔白ナリ○床
ノ下ニアル蓋物ノ如キモノハシビンナリ彼
國ノ寢床ノ下ニハ必ス一ツ、用意アリテ始
テ西洋へ行キシ人ナド此蓋物ニテ間違ノ出
来ルコト少カラズ心得ヘシ

袖時計
ウツチ



時計ハ衣食住ヨリ外ノコトナレドモ西洋ニ
テハ時ヲ測ルハカニ寺ノ鐘ナドヲ当アテニセズ上下
貴賤トモ銘々時計ヲ所持スル風俗ニテ近来
ハ亦日本ニモ追々舶来ノ時計流行セリ然ル
ニ不按内ノ人ハ時計ヲ所持シテ其見様ヲ知
ラザルモノモ少ナカラズ故ニ今此卷末衣食
住ノ序ニ時計ノ見様ヲ記スコト左ノ如シ
西洋ニテハ一昼夜ヲ二十四時ニ分ツユヘ彼
ノ一時ハ日本ノ半時ナリ其一時ヲ六十二分

テコレヲ一分時ハトニユト云フ亦コノ一分時ヲ
六十二分テ一抄時セカト云フ一抄時ハ大抵
脈ノ一動ニ同シ扱時計ノ盤面ヲ十二時ニ分
チ短針ハ一晝夜ニ二度ツ、廻リ長針ハ二十
四度ツ、廻ル仕掛ニセリ先ツ正午亦ハ夜半
第十二時ヲ本トシコノ時ニハ短針モ長針モ
正シク重リ合テ第十二時ノ所ヲ指スコレヨ
リ段々ニ右ノ方へ廻リ短針ノ第一時ヲ指ス
トキハ長針ハ盤面ヲ一周シテヒトマフ六十分時ヲ過

キ又十二時ノ處ニ戻レリコレヨリ亦次第ニ
進之短針ノ第一時ト第二時トノ間ニ來ルト
キハ長針モ盤面ヲ半分廻リテ三十分時ヲ過
キ丁度第六時ノ所ニ來レリ故ニ時計ヲ見テ
時ヲ知ルニハ先ツ短針ノ指ス所ヲ見テ次ニ
長針ノ居所ヲ見ルヘシ譬ヘハ短針ノ指ス所
第九時ト第十時トノ間ニシテ長針ノ指ス所
第二時ノ處ナレハ第九時過キ十分時ナリト
云フ即チ其十分時トハ長針ノ第十二時ノ處

ヲ去ルコト十分時ト云コトナリ亦此短針第
九時ト第十時トノ間ヲ半^蒸過キテ第十時ノ方
ニ近寄り長針モ進テ第八時ノ所ニ来レハコ
レヲ第十時前二十分時ト云フ即チ其二十分
時トハ長針ノ第十二時ノ所ニ至ル迄二十分
時アルト云コトニテ何レモ長針ハ第十二時
ヲ本ニシ盤面ニアル六十ノ点ヲ計ヘテ何時
何分時ト云フコトヲ知ルヘシ此圖ハ第九時
過キ二十二分時ノ處ナリセ「カンド」ノ針ハ一

分時ノ間ニ一廻リスルモノナリ但シ時ヲ見
ルニハセカンドレハ計ヘズ

西洋衣食住終



小田氏



赤

